

第17回目

「私は大天使ミカエル。」

「私はナザレのイエス、死から蘇った

人の子。」

「ろうそくを一本もらって、それに火をつけ

供えなさい。この礼拝堂に来る者は皆

あなたを真似るように。」

1974年5月31日(金) 9時45分-10時5分、礼拝堂にて

月初めの金曜日ではなかったので、私はイエスの訪れを期待していませんでした。

けれども毎朝、子供たちを学校に送って行ってから、イエスを礼拝しに私は礼拝堂へ行き、司祭は私に聖体拝領を授けてくださっていました。

この5月31日の朝、いつものように私は礼拝堂へ行きました。ブルノ修道女が病人のため、主任司祭を探しに来た時、司祭はまだ私に聖体拝領を授けていませんでした。この病人はすぐ近くに住んでいるので、司祭は私にこう言いました：「それほど長くかからないと思うから、戻って来てからあなたに聖体拝領を授けます。」

そこで、この時私は礼拝堂にひとりに残っていました。突然私は、いつものように聖櫃のある場所に光の輪が現れるのを見ました。この光の輪は今までよりも大きく、いつもより少し低い位置に見えました。私はひとりきりでしたが、光は誰かを待っているように思えました。私は雇い人Jに、この時間なら教室にいるであろうブルノ修道女をすぐに呼びに行くように、と言いました。

私は素早く礼拝堂に戻り、まだそこにあった光の前にひとりで、ひざまずいていました。この時、誰かが現れました。それはイエスではありませんでした。

ブルノ修道女が来た時、私は彼女に言いました：「誰かがいますが、イエスではありません。私の知らない誰かです。」

この時、私は自分が礼拝堂にいる、とはっきり感じていました。前回までは、どこかへ連れて行かれたような感じがしていました。ブルノ修道女が入って来た時も、はっきりとその音を聞きましたが、それまでは、私には何も聞こえず何も見えませんでした。完全にイエスの御姿に意識が吸い込まれていました。

この見知らぬ人は、上部に小さな十字架のついた幟のような物を持っていました。その幟はその竿と同じ色調で、金のように輝いていました。十字架の上には、布製のように見える旗があって、3つの文字が書かれていました。最初と最後の文字だけ見えたように思いました。それは**“QUIS ... DEUS”**(神のような者)とありました。竿の先はだんだん細くなって行って、槍のような形の小さな先端で終わっていました。その人は巻き毛の短髪で、兵士のような様子でした。その衣は丈が短く、右手で竿の真中を掴んでいました。ベルトのようなものがふくらはぎに締められていました。

彼が私を見るので、私は尋ねました：「あなたはどなたですか？」

彼は私に答えました。

「私はあなたに挨拶します。」(彼は頭を下げました。)

「私は大天使ミカエル。神が私をお遣わしになりました。

あなたはこれから贖罪の神秘を見ます。そしてあなたは私があなたに言うフレーズをひとつずつ繰り返して言います。」

私は彼に言いました：「もしも神があなたをお遣わしになったのなら、私はあなたに従います。」大天使は、私に次のように言った時もその場にいました：

**“Per Mysterium Sanctae Incarnationis Tuae. ①”**(聖なるあなたの受肉の神秘によって)

この時その姿が消えました。それから私は、誰か白い衣を着た人がひざまずいているのを見ました。それは天使だ、と私は思いました。彼はひとりの若い綺麗な娘を見つけていました。その娘は頭に三角形のスカーフを被っていました。天使を見て、娘は挨拶し、首を傾げたままにしていました。彼女は主が私に示されたように胸の上に両手を重ねました。私は特にこの動作に強い印象を受けました。数秒後、全てが消えました。

それから私は、再び大天使を見ました。彼は言いました：

**“Per Nativitatem Tuam.”**(あなたのご生誕によって)

大天使は消えました。私はそれから、柳の揺りかご、あるいは揺りかごの形をした麦わらの中に赤ん坊がいるのを見ました。長い衣を着た多くの人がその赤ん坊を見、礼拝しているようでした。そして全てが消えました。

私は同じ場所に大天使を認めました(もつとも、彼はずっとそこにいたのだと思います。目の前に繰り広げられる場面の重大さに引き込まれて、私は彼の存在に気づかなかったのでしょうか。)。彼は言いました：

**“Per Baptismum et Sanctum Jejunium Tuam.”**(あなたの洗礼と聖なる断食によって)

大天使は私の前から消え、イエスを見ました。イエスは大きな男性に伴われていました。この男性はイエスよりも小柄でした。彼は毛の短い毛皮のような、袖なしマントを着ていました。水が川のように流れ、この男性はイエスの頭の上にその水を注ぎました。彼は鉢の取っ手を掴んで川の水をすくい、イエスの頭の上に注ぎました。数秒後、イエスは登り道を登って頂上に着き、そこに座られました。両手を組んで、祈るかのよう両目を天に向けられました。それから全てが消えました。

私は再び大天使を見ました。彼は言いました：

**“Per Crucem et Passionem Tuam.”**(あなたの十字架と受難によって)

大天使は消え、私はイエスが右肩にとっても重そうな十字架を負っておられるのを見ました。イエスはそれを辛うじて負い、道の真中を歩いておられました。道の両側では、多くの人が笑っているようでした。中にはイエスに何かを投げつけようと手を挙げていた者もいました。イエスは十字架の重さにもかかわらず、お倒れになりませんでした。私はそのことに驚きました。何度も、私はイエスが道の上に倒れてしまわれるのでは、と思いました。かわいそうなイエス。そしてその場面が消えました。

大天使が再び現れて言いました：

**“Per Mortem et Sepulturam Tuam.”**(あなたの死と埋葬によって)

私はイエスを十字架に見ました。頭を前に垂れて、上半身裸で、右脇腹に大きな傷があり、傷口の下には、流れ出た血の塊が見えたように思います。

3人の人が十字架の足元にいました。一人ずつ両脇に立っていました。悲しげにイエスの御顔を見ていました。真中の人はひざまずいて、彼の足元におり、両手で十字架の足を抱きしめていました。イエスの足にくちづけしがっているように見えました。

私は涙が流れるのを感じました。イエスの両足は木の支えの上に載せられていました。

その場面が消えて、再び大天使を見ました。彼は言いました：

**“Per Sanctam Resurrectionem Tuam.”**(あなたの聖なる復活によって)

この瞬間、私は生きているイエスを再び見ました。

たとえようのない喜びが私の中に広がっていきました。イエスは 1972 年 12 月 27 日、最初に現れた時と全く同じようにお現れになりました。微笑みながら、私を迎えるかのように両手を差し出して、初めてイエスを見るような感じがしました。

イエスの十字架での死を見た後、私はイエスが生きておられるのを見ているのです。イエスは生きておられます、死者の中から蘇られたのです。

イエスは言われました：

「私はナザレのイエス。死者の中から復活した人の子。私の傷を見なさい。」

右手で衣の右側を開けられました(衣は開き口がないように見えました)。

私は、血のない大きな傷を見ました。

右の手の甲には、小さな穴を認めました。

私はまた、私に向けて差し出された左手の平と、両足にもそれぞれ穴があるのを見ました。それからイエスは言われました：

「近づいてきて私の脇腹に触れなさい。」

私は立ち上がりました。右手を差し出して、二つの指(中指と人差し指)で、とても深そうに見える傷口のへりに触れました。私は感極まって、言いました：「主よ、あなたは私達のためにこれほどまでに苦しまれたのですね。」私は、イエスがこの世のため、この世の罪のため、この世の忘恩のため、私達哀れな罪人のために、いかに苦しめられたかに思いをめぐらし、悲しく思いました。私はひざまずきました。イエスはいつもの姿勢、つまり両手を私に差し出された姿勢に戻られました。その衣もいつもの状態に戻りました。それからイエスは言われました：

「次のことを大きな声で言って下さい。」

イエスはひとフレーズ毎におっしゃったので、私はそれに合わせて繰り返しました。

「イエスは、あなた方に教える祈りを世界中に伝えるように、と頼んでおられます。

彼は栄光の十字架と神殿とが聖年の終わりに向けて建てられるように望んでおられます。なぜならそれは最も重要な聖年だからです。

マドレーヌが初めて十字架を見た日には、毎年そこで荘厳な祝いをするように。確信に満ちて、そこへ悔い改めに来る者は皆、この命、また永遠の救いにあずかります。サタンは彼らの上に何らの力も及ぼすことができません。

数秒後、大変真剣な声で：「まことにあなた方に言いますが、私の父はあなた方を救い、あなた方に平安と喜びを与えるために、私をお遣わしになりました。私は愛と憐れみそのものであることを知りなさい。」

それから付け加えて：「これで私のメッセージは終了します。」

大天使が、姿を見せないままわたしに次のような言葉を言い、私がそれを繰り返している間、イエスはそこにおられました：

**“Per Admirabilem Ascensionem Tuam”**(あなたの素晴らしい御昇天によって)

この時イエスは手を私の方に挙げられ、言われました：

「平安があなたと共に、またあなたに近づく人全てと共にあるように。」

イエスは手をおろされました。私はイエスがゆっくりと、少しずつ昇っていかれるのを見ていましたが、ついには見えなくなりました。私は再び大天使を見ました。彼は言いました：

**“Per Adventum Spiritus Sancti Paracliti”**(聖霊、慰め主の訪れによって)

このとき、大天使は消えませんでした。その場に残って、私に言いました：

「イエスはたった今、あなたから立ち去られました。そのメッセージは終わりました。けれどもあなたは再びイエスを見ることでしょう。」

さらに彼は次の言葉を付け加えました。私はそれを繰り返しました：

**“Per cujus imperii Nomen est in aeternum, ab omni malo libera nos Domine.”**

さらに、私に繰り返し言うように、とは指示しないまま、大天使は続けて言いました：「これはつまり、その名が永遠の支配を持つ方によって、主よ、私たちをあらゆる悪から開放してください、という意味です。」

それから、さらに：

「このことを大きな声で言って下さい：神は、任されている仕事の完遂を遅らせ、不信仰である司祭たちを非難なさる。神は、彼らに、マドレーヌを暗闇からその眩いばかりの光の中にお呼びになった方の素晴らしいさを世界中に告げ知らせるように、と頼

まれました。なぜなら栄光の十字架は、ドズレの町を美しく飾るからです。彼らは何もしていませんでした。このために、池に水がないのです。大千ばつが世界を襲うでしょう。司祭たちはこのメッセージを入念に読んで、依頼されていることを忠実に実行するように。ここにいる人に、ろうそくを一本渡すように頼んでください。」

私は振り返って、ブルノ修道女にろうそくを一本所望しました。

私がそれを手にした時、大天使は言いました：

「キリストがたった今立ち去った場所に、それを置いて火を点けなさい。この礼拝堂に来る人は誰でも、あなたを真似るように。」

しばらくして、すぐに：

「あなたは今日1日中、司祭およびあなたの話を聞きたがる人々に語ることができます。あなたは聞いたこと全てを覚えていることでしょう。それを聞く人々は、あなたの記憶力に驚くことでしょう。司祭はひとりの人を選んで、メッセージを3度読ませ、それを繰り返すよう試すように。その人は、繰り返すことができません。」

大天使は私を見て、言いました：

「家に帰ったら、これから私があなたに言うことを書き留めてください。あなたはそのメモを、司祭があなたに『サクレクルの週に、司教と会う約束がある。』と言う時、すぐに手渡しなさい。サクレクルの日に、あなたは9日間祈禱を始めなさい。

この9日間祈禱は、あなたに示された9つの玄義を1日ひとつずつ行うように。

それから司教に会いに行きなさい。あなたは彼に、神があなたをお遣わしになっていると言いなさい。そして彼にメッセージの全てを渡しなさい。彼がそれを知ることができるように。ドアは開かれ、司教の心は和らげられるでしょう。」

そこで私は、主任司祭から、大天使が私にあらかじめ示した言葉を聞く時まで、このメモを大切に自宅に保管しておきました。

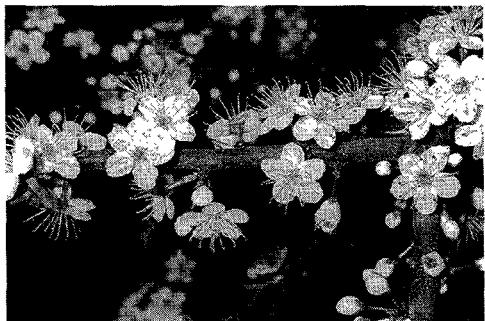
主は良きことをなさいます。6月12日水曜日、主任司祭が自宅に来て私に言いました：「私は来週司教と合う約束があります。」 私は彼に言いました：「それはサクレクルの週ですね。」 彼は答えました：「それはどうか分からないけれども...。」「きっとそうです。」「なぜですか?...」 私はそこで彼に、大天使が私に告げた言葉を手渡ししました。そして確かに、主任司祭が司教と約束していたのは、サクレクルの週でした。

それから私たちは礼拝堂で一緒に 9 日間祈禱を行いました。大天使に言われたように、サクレールの日にそれを始めました。この 9 日間祈禱は、次の週の土曜日に終わりました。大天使は言っていました：「それから司教に会いに行きなさい。」

私はそこに行きたかったのです。翌日ではなく、なぜならそれは日曜日だったので、翌々日に。私は何かに後押しされ、我を忘れたようでした。私には何らの交通手段もありませんでした(原動機付自転車が使えた、と今では思いますが)。けれども私は行かなければなりません。神が大天使を通してそのことを望まれたのです。神が大天使に、私に向かって言わせたのです。説明のつかないある勢いが、メッセージ全体を持って司教の元に行く力を私に与えました。主任司教が私に次のように言った時、私の失望は深いものでした：「でも、こんな風に私たちは司教に会いには行けません。予約を取らなければなりません。それに多分司教はおられないでしょう。司教はあなたをこんな風には迎えないものです。従わなければなりません。私たちはいつも従わなければならないのです。」私の熱意は強かったのに、主任司教は私の前に立ちはだかりました。彼は言いました：「従わなければならない。」一方、私には従いたくない、という思いがありました。なぜなら、司教に会いに行き、神が私にお与えになったメッセージを司教に渡すという熱意は、神が私にお与えになったのだ、ということが私には分かっていたからです。私はこのためどれほど悲しみ泣いたことか...。それは大変辛いことでした。けれども私は主任司教に従いました。一方で、私には、司教が私を迎え、ドアが開かれるだろう、という確信がありました。けれども、人を喜ばせるために、私は神に従いませんでした。私は神がこのことのために私を非難なさるだろう、と思います。

① キリスト昇天祭からペンテコステまでの期間、連禱の際に唱えられる言葉。





6月最初の金曜日

イエスはお現れになりませんでした。

第18回目

「イエスがお現れになりました。」

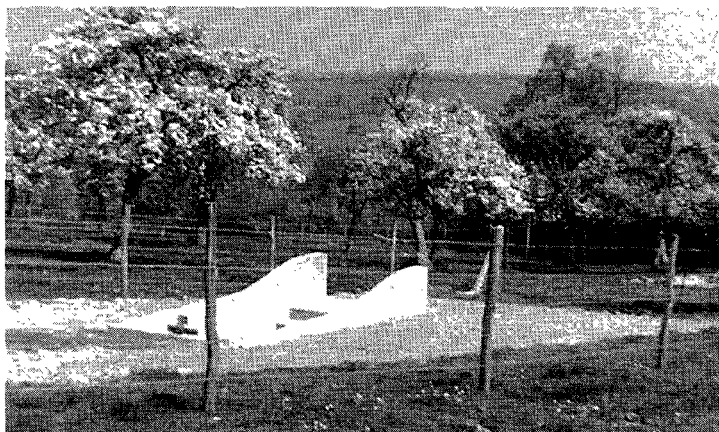
1974年7月5日金曜日、礼拝堂にて

イエスは姿を現されましたが、何もおっしゃいませんでした。

1974年7月19日金曜日

池に水があるのが見つかりました。

(5月3日の警告以来、50日以上も遅れて...)





## 第 19 回目

「行列をしてここに来なさい。そして恐れずに身体を洗いなさい。

この水は泉ではありません。この水は地面から流れ出て来るのです。」

1974年8月3日(土)、オット・ビュットに面した庭にて

私は洗濯物が乾いているかどうか見るため、庭に出ていました。家に向かって登り始めた時、かなり遠くの、十字架の見た場所からある声が聞こえてきました：

「私は大天使ミカエル、私の言うことを聞いてください。」

私は声の聞こえる方向に向かって、ひざまずきました：

「司祭に言いなさい。奥の面を除いて、池の3面を固めるように。4つ目の面は、横幅に沿って幅25センチを固め、3段の階段を作ること。そこへ行列をして行き、塵\*の混じったその水の中で恐れることなく身体を洗いなさい。なぜなら、あなた方は塵であり、塵に戻るからです。けれども、あなた方の心は清められます。この水は、泉ではありません。地面から流れ出て来る水です。汚れることを恐れず、そこで身を清める者は幸いです。」

\* 民数記5章11,17,31節

## 第 20 回目

「悲しんではいけません。」

1974年9月6日(金)、礼拝堂にて

光の輪が見えました。マルゲリットーマリ修道女が私と一緒にいました。私は大きな声で言いました：「光が見える。」 光が見えた時、私はあまりに嬉しくて叫ぶのをこらえることができませんでした。

それから御聖体の左側(あるいはむしろ、この光の左側)に、いつものように大天使ミカエルが現れ、私に言いました：

「あなたに挨拶します。」

私は、御聖体の少し左側にいる、彼の前にひざまずきました。けれども彼は言いました：

「私の前にではなく、あなたが礼拝しに来た方の前にひざまずきなさい。」

そこで私は立ち上がり、御聖体の前にひざまずきました。

この時、私は聖体顕示台から光の筋が流れ出すのを見ました。その光の筋は、生きているようで、光の泉であるかのように、聖体顕示台から絶えず新たに繰り出されてきました。(説明するのがとても難しいのですが。) 聖ミカエルは少し左によって、常にその場にいました。彼は言いました：「幼いダビッドのことについて、悲しんではいけません(8)。神がそのようになることを望まれたのだとしたら。それは彼自身の目が閉じられているためではなく、信仰の光に向かって目を閉じている彼の両親のせいなのです。主があなたから最後に立ち去られた場所に、ろうそくを置きなさい。」

大天使が私に語っている間中、御聖体からは絶えず光の筋が流れ出ていました。それから全てが消えました。

⑧ 幼いダビッドとは、マドレーヌ、ロランドの孫息子。

1974年10月最初の金曜日

イエスは姿を現されませんでした。